

60歳代以上の投資信託等に関するアンケート調査 調査結果サマリー

2020年（令和2年）3月
一般社団法人 投資信託協会

Point

- 投資信託の認知率は83.3%、現保有率は22.5%。（P5）
現保有の投資信託商品は、「毎月・隔月分配型ファンド」（56.7%）、「バランス型ファンド」（45.1%）の順で高い。（P6）
- 60歳以上の半数（50.9%）の人が「老後のための資産形成は特にしてこなかった」と回答。
「資産形成の時間は十分だったと思う」人は36.5%に留まるが、投資信託商品現保有者では約半数（49.2%）まで上昇する。
資産形成の時間が十分でなかったと思う人は、「30代から」、「40代から」資産形成を始めていれば良かったと思っている人が多い。（P25）
- 今後、金融商品を購入する際の意識は、「元本が保証されていること」（34.4%）、「高い収益は期待できなくても、リスクを抑えて運用したい」（26.0%）の2つが高い。（P27）



こちらのサマリーと報告書の全文は
投資信託協会ホームページにて公開しております。

<https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research20193/>



一般社団法人
投資信託協会

■ 調査計画の概要	P.2
1.回答者属性	P.3
2.投資信託商品の保有状況	P.5
3.全般的な投資への意識と実態	P.7
4.老後の資産（年金・退職金）に関する実態と意識	P.21
5.60歳代以上の現在の生活や今後への意識	P.28

調査計画の概要

調査の目的	日本における60歳以上（個人）の投資信託等に対する意識等を把握し、調査結果を協会会員及び各種研究機関、メディア等に広く還元すると同時に、制度改正に活用する。				
調査手法	インターネット調査（マクロミルモニタ及び提携パネルより抽出）				
調査地域	全国（首都圏、阪神圏、その他の3ブロック）				
調査対象	60歳以上の男女				
サンプル数	総計5,146サンプル				
		60-69歳	70-79歳	80歳以上	計
	男性	1,130	826	473	2,429
	首都圏	298	229	117	644
	阪神圏	166	133	73	372
	その他	666	464	283	1,413
	女性	1,189	979	549	2,717
	首都圏	308	263	175	746
	阪神圏	182	156	104	442
	その他	699	560	270	1,529
計	2,319	1,805	1,022	5,146	
<p>「首都圏」 埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県</p> <p>「阪神圏」 京都府、大阪府、兵庫県、奈良県</p> <p>「その他」 上記以外の道県</p> <p>「その他」地域の80歳以上女性は、地域×年齢×性別の人口構成比での回収が困難なため、最大数の回収にとどめ、欠損分は他の各セルで均等に回収した。本報告書内では、全体値参照時は、「全体（構成比）」として構成比通りにランダムに抽出した2,737サンプルを使用。</p>					
調査時期	2020年1月24日（金）～1月30日（木）				
調査主体	一般社団法人 投資信託協会				
調査実施機関	株式会社 マクロミル				

※スコアは小数点第二位で四捨五入し、小数点第一位まで掲載。

1. 回答者属性

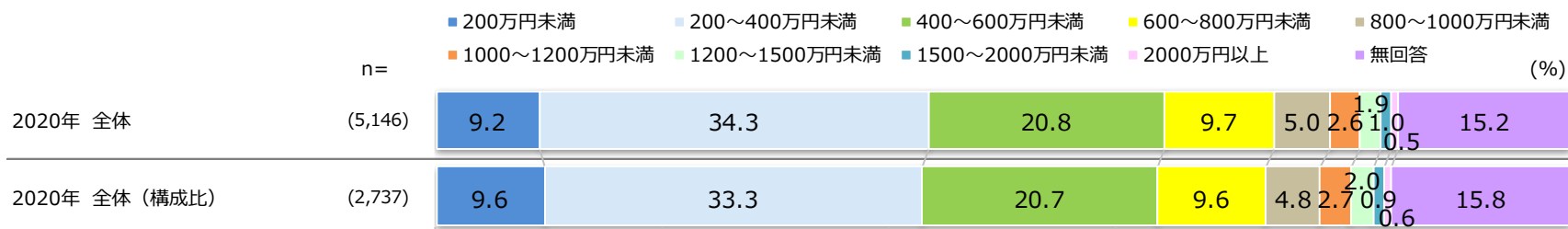
性別



年代

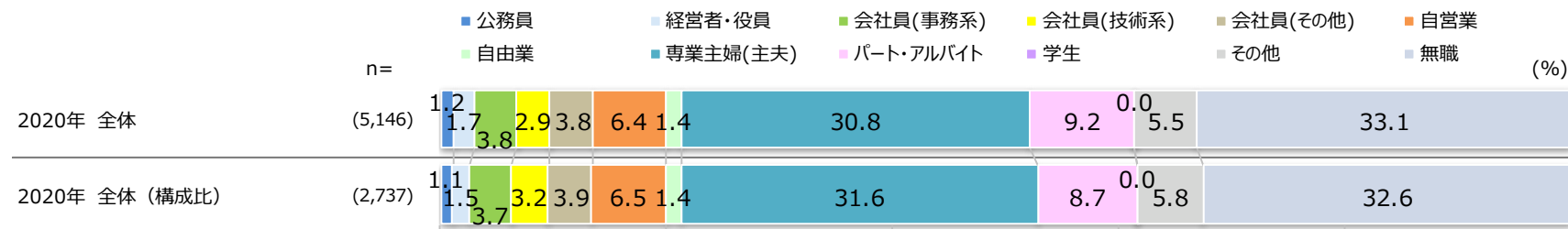


世帯年収



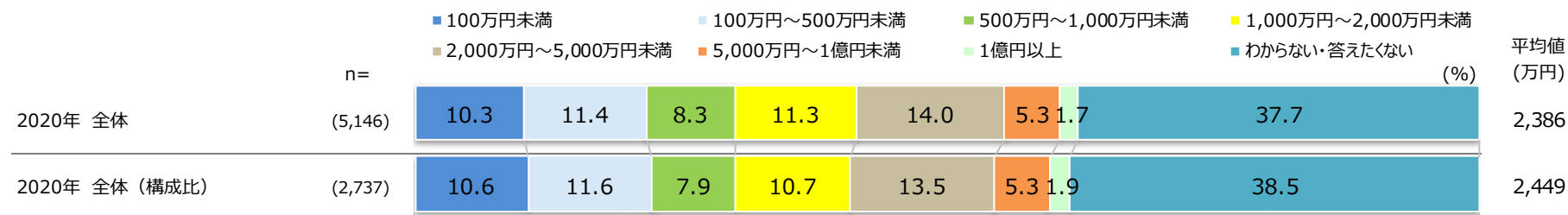
1. 回答者属性

職業



金融資産

(Q3)

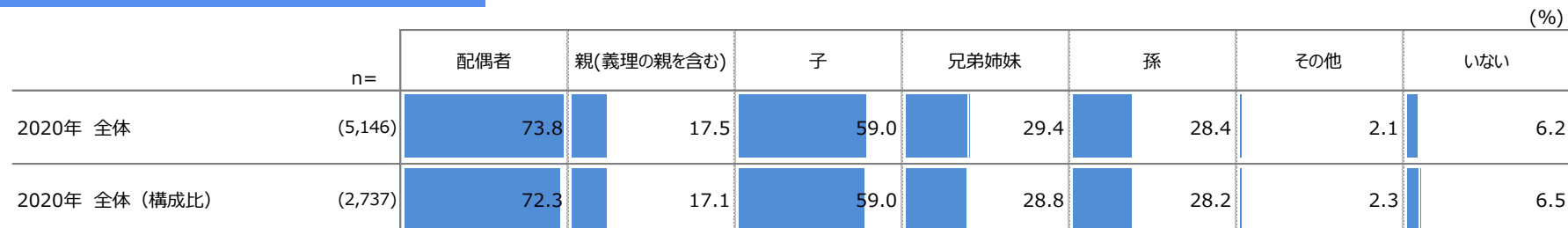


※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り。

100万円未満：50万円 / 100万円～500万円未満：300万円 / 500万円～1,000万円未満：750万円 / 1,000万円～2,000万円未満：1,500万円 / 2,000万円～5,000万円未満：3,500万円 / 5,000万円～1億円未満：7,500万円 / 1億円以上：2億円

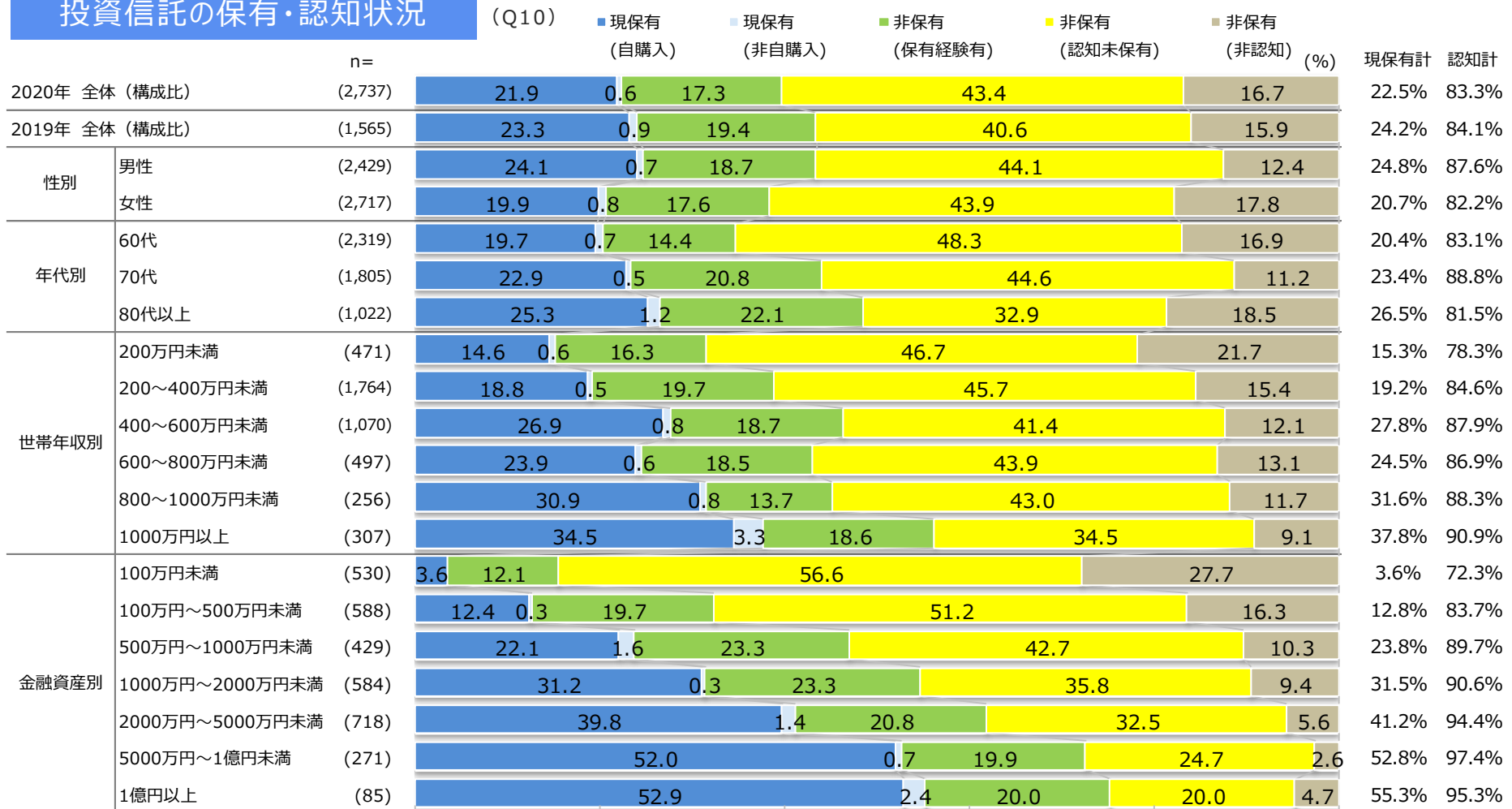
家族構成

(Q1)



2. 投資信託商品の保有状況（1）

投資信託の保有・認知状況



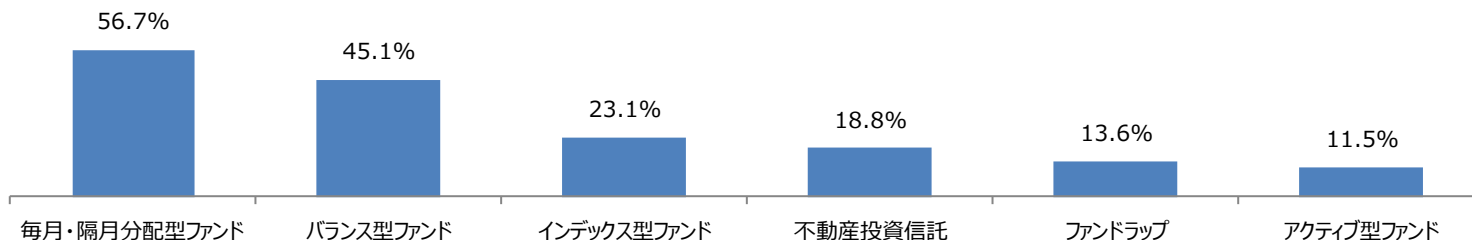
※現保有計：（「現保有(自購入)」+「現保有(非自購入)」）／認知計：（「現保有(自購入)」～「非保有(認知未保有)」）のスコア

- 60代以上の投資信託の現保有率は22.5%。認知率は83.3%。いずれも2019年調査よりも微減。
- 性別で見ると、男性は女性より保有率が高い。年代別で見ると、年代が上がるほど保有率が高い。
- 世帯年収別で見ると、年収が上がるほど現保有率、認知率とも高い。

2. 投資信託商品の保有状況（2）

投資信託の保有種類

（Q12） ※投資信託現保有者ベース（構成比）(n=616)



投資信託種類別の保有理由

（Q13） ※各投資信託現保有者ベース

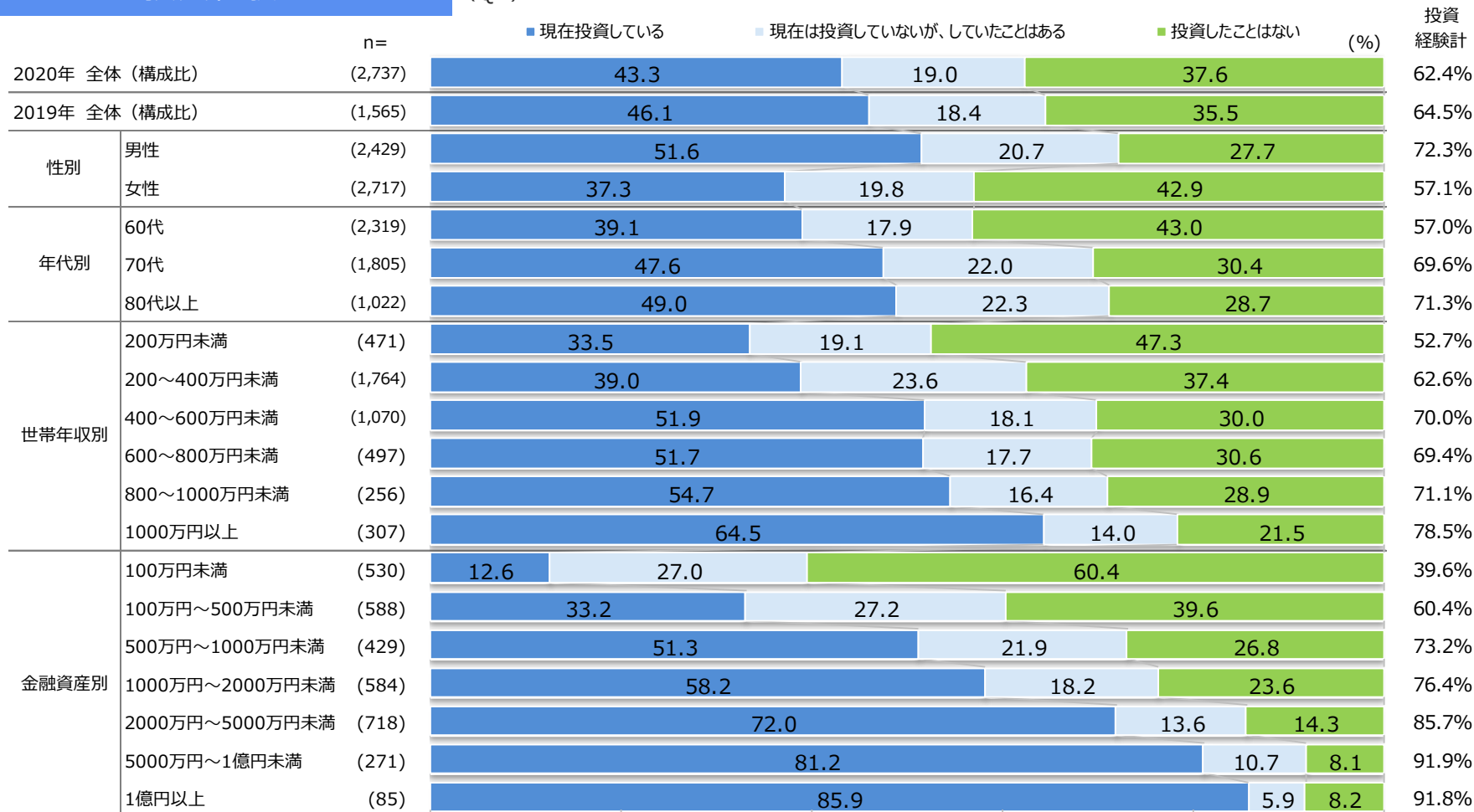
	毎月・隔月分配型ファンド 保有者ベース (n=349)	バランス型ファンド 保有者ベース (n=278)	インデックス型ファンド 保有者ベース (n=142)	不動産投資信託 保有者ベース (n=133)	ファンドラップ 保有者ベース (n=110)	アクティブ型ファンド 保有者ベース (n=71)
1位	預貯金の金利が低いから 66.5%	預貯金の金利が低いから 68.0%	預貯金の金利が低いから 69.0%	預貯金の金利が低いから 69.2%	預貯金の金利が低いから 59.1%	資産を分けて保有しておくため 77.5%
2位	資産を分けて保有しておくため 42.7%	資産を分けて保有しておくため 54.7%	資産を分けて保有しておくため 54.2%	資産を分けて保有しておくため 56.4%	資産を分けて保有しておくため 57.3%	預貯金の金利が低いから 69.0%
3位	自分の生活費のため 30.7%	投資そのものを楽しむため 29.5%	投資そのものを楽しむため 35.2%	投資そのものを楽しむため 33.8%	投資そのものを楽しむため 33.6%	投資そのものを楽しむため 42.3%
4位	投資そのものを楽しむため 27.5%	自分の生活費のため 27.3%	将来の医療・介護費用の負担に備えるため 26.8%	自分の生活費のため 31.6%	将来の医療・介護費用の負担に備えるため 31.8%	趣味やレジャーなどの遊興費に充てるため 32.4%
5位	将来の医療・介護費用の負担に備えるため 21.8%	将来の医療・介護費用の負担に備えるため 23.7%	自分の生活費のため 22.5%	将来の医療・介護費用の負担に備えるため 23.3%	自分の生活費のため 31.8%	将来の医療・介護費用の負担に備えるため 31.0%

- 保有している投資信託の種類は、「毎月・隔月分配型ファンド」（56.7%）が最も高く、次いで「バランス型ファンド」（45.1%）。
- 保有理由は、種類に関わらず「預貯金の金利が低いから」、「資産を分けて保有しておくため」が多い。

3. 全般的な投資への意識と実態 (1)

投資経験

(Q4)



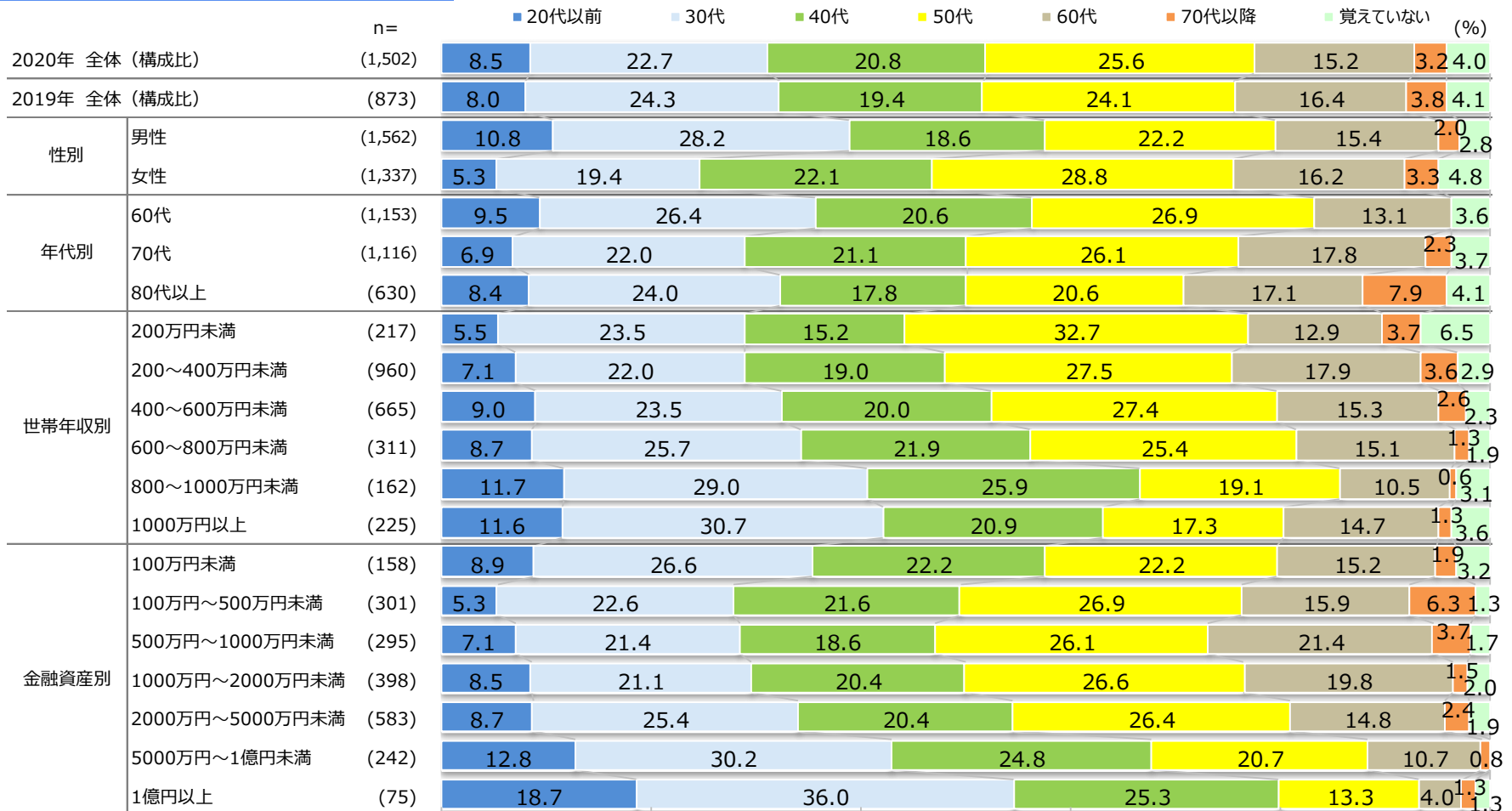
※投資経験計: (「現在投資している」+「現在は投資していないが、していたことはある」) のスコア

- 60代以上の投資経験について、現投資率は43.3%。投資経験率は62.4%。どちらも2019年調査から微減。
- 性別で見ると、男性は女性より現投資率が高く、51.6%。年代別で見ると、70代・80代以上は60代より現投資率が高く、5割弱。
- 世帯年収別では、年収が上がるほど現投資率が高くなり、世帯年収400万円以上で現投資率が50%を超える。

3. 全般的な投資への意識と実態 (2)

初めて投資をした年齢

(Q5) ※投資経験者ベース



- 投資経験者の初めて投資した年齢は、「50代」(25.6%)、「30代」(22.7%)、「40代」(20.8%)の順に高い。
- 性別で見ると、男性では「30代」(28.2%)が最も高く、女性では「50代」(28.8%)が最も高い。
- 世帯年収別では、年収が上がるほど「20代以前」、「30代」からの投資の割合が増加する。

3. 全般的な投資への意識と実態 (3)

初めて投資をしたきっかけ

(Q6) ※投資経験者ベース

		n=	自分から自然と興味を持った	家族や友人、知人に勧められた	金融機関から勧められた	定期預金や保険が満期になりお金が戻ってきた	テレビや雑誌、インターネット等の情報に影響を受けた	退職金をもらった	贈与や相続を受けた	ライフステージが変化した	企業型確定拠出年金に加入した	その他
2020年 全体 (構成比)		(1,502)	37.0	25.1	22.4	12.6	11.7	9.5	8.3	6.4	2.7	3.0
2019年 全体 (構成比)		(873)	36.9	21.4	21.6	14.7	10.7	9.9	8.8	4.7	-	3.1
性別	男性	(1,562)	45.1	16.3	17.5	10.8	13.4	13.2	5.9	7.0	4.5	4.0
	女性	(1,337)	25.7	32.9	28.4	16.0	9.5	5.2	10.3	4.9	1.0	2.4
年代別	60代	(1,153)	35.6	22.1	21.6	10.8	14.1	9.7	8.4	7.5	4.1	2.4
	70代	(1,116)	34.8	26.7	23.0	13.4	10.0	8.7	7.2	5.4	2.1	3.4
	80代以上	(630)	39.5	22.4	23.3	17.3	9.7	10.5	8.4	4.4	2.4	4.6
世帯年収別	200万円未満	(217)	34.6	23.0	21.7	8.3	13.8	6.5	8.8	5.5	1.4	1.8
	200~400万円未満	(960)	36.5	23.3	21.6	14.3	9.7	10.4	7.3	5.2	2.6	3.3
	400~600万円未満	(665)	40.5	22.6	21.7	12.5	12.8	12.0	8.3	6.5	2.9	2.9
	600~800万円未満	(311)	35.0	22.5	22.2	11.9	13.5	6.8	8.7	6.8	3.5	4.2
	800~1000万円未満	(162)	30.9	28.4	25.9	15.4	13.0	7.4	8.6	7.4	4.9	3.1
	1000万円以上	(225)	37.3	28.4	20.9	16.9	11.1	9.8	10.2	9.3	4.9	4.9
金融資産別	100万円未満	(158)	43.7	23.4	15.8	6.3	17.7	7.0	5.7	7.0	2.5	1.9
	100万円~500万円未満	(301)	35.2	26.2	18.6	10.3	16.3	8.3	6.0	5.3	1.7	2.3
	500万円~1000万円未満	(295)	39.3	20.0	15.9	13.6	14.9	12.2	6.1	8.1	4.1	2.4
	1000万円~2000万円未満	(398)	32.2	22.9	22.4	16.3	12.1	13.6	8.5	7.5	4.0	2.8
	2000万円~5000万円未満	(583)	35.7	24.4	26.1	16.8	11.0	11.8	9.1	6.2	3.9	3.9
	5000万円~1億円未満	(242)	36.4	26.0	27.3	18.2	12.0	8.7	7.4	8.3	2.9	3.3
	1億円以上	(75)	41.3	22.7	28.0	14.7	5.3	6.7	12.0	9.3	1.3	5.3

※「2020年 全体 (構成比)」スコアで降順ソート

- 初めて投資をしたきっかけは、「自分から自然と興味を持った」(37.0%)が最も高い。次いで「家族や友人、知人に勧められた」(25.1%)、「金融機関から勧められた」(22.4%)と続く。
- 性別で見ると、男性では「自分から自然と興味を持った」(45.1%)が最も高く、他の項目と約28ポイント以上の差がある。一方、女性では「家族や友人、知人に勧められた」(32.9%)が最も高く、次いで「金融機関から勧められた」(28.4%)。

3. 全般的な投資への意識と実態 (4)

投資理由

(Q7) ※投資経験者ベース

		n=	預貯金の金利が低いから	投資そのものを楽しむため	資産を分けて保有しておくため	自分の生活費のため	将来の医療・介護費用の負担に備えるため	趣味やレジャーなどの遊興費に充てるため	経済について学ぶため	社会とのつながりを持つため	相続や贈与の資金のため	その他	特に理由は無い
2020年 全体 (構成比)		(1,502)	49.1	31.3	26.9	21.0	20.9	15.4	14.6	6.9	5.2	1.5	8.5
2019年 全体 (構成比)		(873)	45.4	30.8	25.7	16.4	17.2	11.9	15.2	6.0	4.8	2.1	12.3
性別	男性	(1,562)	47.2	35.9	27.5	23.9	22.5	15.2	16.6	7.9	4.9	1.7	8.5
	女性	(1,337)	52.6	23.6	25.9	15.8	18.1	12.9	12.1	6.5	4.6	1.3	11.4
年代別	60代	(1,153)	52.6	26.8	27.1	21.2	19.9	13.0	13.4	4.4	4.1	1.3	9.0
	70代	(1,116)	48.3	31.5	25.5	18.5	18.8	15.2	13.4	7.6	3.9	1.2	10.9
	80代以上	(630)	47.0	34.1	28.3	21.0	24.3	14.3	18.7	11.7	7.5	2.4	9.2
世帯年収別	200万円未満	(217)	43.8	24.0	20.3	23.0	14.3	9.2	8.8	4.1	2.8	0.9	12.9
	200~400万円未満	(960)	48.0	29.3	21.6	21.6	19.3	12.6	12.0	6.7	2.9	1.7	11.4
	400~600万円未満	(665)	54.0	35.0	29.5	21.4	25.3	15.5	16.8	8.0	6.6	0.9	8.1
	600~800万円未満	(311)	47.9	24.8	28.0	16.7	20.9	15.4	13.5	7.7	5.1	1.9	9.0
	800~1000万円未満	(162)	54.9	34.0	37.7	18.5	21.6	16.7	17.9	10.5	8.0	1.2	6.8
	1000万円以上	(225)	49.8	35.1	41.8	16.9	23.6	16.9	19.6	12.0	8.9	2.2	7.1
金融資産別	100万円未満	(158)	31.6	31.6	12.7	30.4	11.4	14.6	14.6	6.3	2.5	1.3	10.8
	100万円~500万円未満	(301)	46.5	32.9	13.6	25.6	18.9	13.0	17.9	6.0	2.0	2.0	8.6
	500万円~1000万円未満	(295)	48.5	30.2	22.4	23.1	18.6	10.5	13.6	5.8	4.4	0.7	10.8
	1000万円~2000万円未満	(398)	52.0	29.1	27.4	19.3	21.1	14.3	12.3	7.5	3.8	1.0	8.5
	2000万円~5000万円未満	(583)	59.3	30.5	36.4	22.5	26.9	17.2	16.3	8.7	7.2	1.5	6.3
	5000万円~1億円未満	(242)	58.3	32.2	43.8	15.3	27.7	19.4	19.8	10.3	7.9	0.8	5.4
	1億円以上	(75)	58.7	42.7	41.3	14.7	26.7	17.3	22.7	16.0	14.7	-	2.7

※「2020年 全体 (構成比)」スコアで降順ソート

- 投資理由は、「預貯金の金利が低いから」(49.1%)が最も高く、次いで「投資そのものを楽しむため」(31.3%)、「資産を分けて保有しておくため」(26.9%)と続く。
- 世帯年収別で見ると、年収が上がるほど「資産を分けて保有しておくため」が高くなる。

3. 全般的な投資への意識と実態 (5)

投資未経験理由

(Q8) ※投資未経験者ベース

(%)

		n=	そもそも投資に興味がないから	投資するための資金がないから	投資の知識がないから	損をするのが怖いから	賭け事のように嫌だから	なんとなく機会がなかったから	周りに投資している人がいないから	資産を増やす必要性を感じないから	その他	特にな
2020年 全体 (構成比)		(1,235)	37.4	34.9	34.3	33.4	21.2	5.5	4.6	3.4	0.4	14.2
2019年 全体 (構成比)		(692)	37.0	33.2	38.6	28.5	20.4	3.9	2.3	3.2	1.6	14.0
性別	男性	(867)	36.9	39.2	32.2	29.6	21.8	6.2	4.3	3.7	0.5	15.1
	女性	(1,380)	38.8	33.3	39.9	35.3	21.3	4.6	3.4	2.1	0.4	12.8
年代別	60代	(1,166)	36.8	34.7	36.1	36.8	21.7	4.0	4.0	2.1	0.5	12.0
	70代	(689)	42.7	39.0	39.8	30.8	20.9	5.4	3.3	3.0	0.3	13.1
	80代以上	(392)	33.7	32.1	34.2	26.3	21.9	8.4	3.6	4.1	0.3	19.6
世帯年収別	200万円未満	(254)	37.4	44.1	37.4	28.7	18.5	3.5	4.7	1.6	0.4	15.4
	200~400万円未満	(804)	37.4	38.7	37.6	34.6	21.0	4.5	3.9	2.6	0.4	12.9
	400~600万円未満	(405)	40.5	32.1	32.6	29.4	21.2	6.7	2.5	3.7	1.0	11.6
	600~800万円未満	(186)	36.6	31.2	45.7	40.9	25.3	3.8	4.8	2.7	-	10.2
	800~1000万円未満	(94)	40.4	30.9	42.6	41.5	29.8	8.5	8.5	3.2	-	6.4
	1000万円以上	(82)	41.5	20.7	37.8	24.4	25.6	3.7	2.4	7.3	1.2	14.6
金融資産別	100万円未満	(372)	32.0	53.2	31.2	25.3	16.4	3.2	4.8	1.9	0.3	12.6
	100万円~500万円未満	(287)	33.8	44.3	42.9	34.5	23.7	5.9	4.2	2.4	-	8.0
	500万円~1000万円未満	(134)	43.3	40.3	44.8	36.6	20.1	5.2	5.2	6.0	-	9.0
	1000万円~2000万円未満	(186)	47.3	27.4	43.5	37.6	28.5	10.2	2.2	1.6	1.1	8.1
	2000万円~5000万円未満	(135)	48.9	14.1	48.1	39.3	29.6	3.7	4.4	4.4	0.7	4.4
	5000万円~1億円未満	(29)	34.5	3.4	41.4	41.4	31.0	6.9	3.4	6.9	-	10.3
	1億円以上	(10)	50.0	-	50.0	60.0	30.0	-	10.0	30.0	-	10.0

※n=30未満は参考値として掲載

※「2020年 全体 (構成比)」スコアで降順ソート

- 投資未経験理由は、「そもそも投資に興味がないから」(37.4%)、「投資するための資金がないから」(34.9%)、「投資の知識がないから」(34.3%)、「損をするのが怖いから」(33.4%)が高い。
- 年代別で見ると、年代が上がるほど「損をするのが怖いから」は低くなる。

3. 全般的な投資への意識と実態 (6)

投資の経験・考え方

(Q9) ※投資経験者ベース

※スコアはあてはまる計（「とてもあてはまる」+「あてはまる」）

(%)

		n=	過去に自分の投資を後悔したことがある	年齢を重ねるにつれて、ローリスク・ローリターンの投資をするようになった	以前より自分で調べて投資することを面倒に思うようになった	年齢を重ねるにつれて、自分の判断に自信がなくなってきた	過去に想像以上のハイリターンを得たことがある	以前より運用期間を短く考えるようになった	積立投資の効果を実感したことがある	経験を重ねて、自分の判断に自信を持っている	経験を重ねて、ハイリスク・ハイリターンの投資をするようになった
2020年 全体 (構成比)		(1,502)	61.9	43.2	42.3	33.8	31.2	30.7	23.0	13.9	12.1
2019年 全体 (構成比)		(873)	63.0	45.7	46.2	30.7	32.4	32.3	21.5	15.5	12.3
性別	男性	(1,562)	62.5	42.1	36.7	27.3	33.1	27.4	22.3	15.4	13.2
	女性	(1,337)	61.6	47.9	50.0	41.1	28.8	33.4	19.8	10.6	8.5
年代別	60代	(1,153)	61.0	43.5	39.8	31.0	30.4	27.2	21.8	12.5	10.3
	70代	(1,116)	63.6	45.6	45.1	34.6	31.5	29.8	20.4	12.2	10.6
	80代以上	(630)	61.3	45.7	44.4	37.1	31.7	36.0	21.3	16.2	13.2
世帯年収別	200万円未満	(217)	58.5	35.9	43.3	37.8	25.3	26.7	12.4	6.9	7.4
	200~400万円未満	(960)	63.6	44.8	47.5	34.8	28.2	32.2	19.6	11.4	10.1
	400~600万円未満	(665)	65.4	48.4	42.0	35.3	34.0	33.1	21.8	16.1	12.9
	600~800万円未満	(311)	60.1	43.4	40.2	31.2	33.8	28.9	22.2	14.8	9.6
	800~1000万円未満	(162)	65.4	54.3	40.1	31.5	35.8	28.4	27.8	14.8	11.7
	1000万円以上	(225)	54.7	47.6	33.3	26.2	42.7	28.9	33.8	20.4	10.7
金融資産別	100万円未満	(158)	55.1	27.8	35.4	36.1	20.9	30.4	13.9	9.5	13.9
	100万円~500万円未満	(301)	63.8	39.2	44.5	33.6	22.9	29.6	22.6	11.3	11.6
	500万円~1000万円未満	(295)	64.7	44.1	45.8	39.7	28.1	34.9	21.7	14.6	10.2
	1000万円~2000万円未満	(398)	63.1	51.0	44.2	35.2	28.4	31.7	20.6	11.3	11.3
	2000万円~5000万円未満	(583)	64.3	52.5	43.7	33.4	38.6	32.1	22.3	13.6	12.2
	5000万円~1億円未満	(242)	67.4	53.7	37.6	27.7	45.9	28.9	28.5	21.5	9.1
	1億円以上	(75)	65.3	57.3	38.7	28.0	56.0	30.7	26.7	26.7	16.0

※「2020年 全体 (構成比)」スコアで降順ソート

- 投資経験者の投資の経験・考え方については、「過去に自分の投資を後悔したことがある」(61.9%)が最も高い。次いで「年齢を重ねるにつれて、ローリスク・ローリターンの投資をするようになった」(43.2%)、「以前より自分で調べて投資することを面倒に思うようになった」(42.3%)。
- 世帯年収別でみると、年収が上がるほど「過去に想像以上のハイリターンを得たことがある」、「積立投資の効果を実感したことがある」が高くなっている。

3. 全般的な投資への意識と実態 (7)

利用を検討してもよい金融商品 (Q11)

		n=	預貯金	株式	投資信託	外貨建て商品	保険商品	債券	不動産投資信託	その他の金融商品	金融商品は利用を検討しない
2020年 全体 (構成比)		(2,737)	46.5	31.8	18.2	8.6	8.5	8.2	6.0	0.8	37.1
2019年 全体 (構成比)		(1,565)	46.5	30.4	17.3	7.9	11.2	8.2	4.8	0.5	35.2
性別	男性	(2,429)	44.1	42.7	23.2	10.6	7.1	9.4	7.7	1.4	34.0
	女性	(2,717)	47.8	23.2	14.5	6.9	9.7	7.1	3.9	0.4	39.8
年代別	60代	(2,319)	47.9	30.1	19.0	9.7	9.2	7.9	6.0	1.0	36.7
	70代	(1,805)	45.5	34.2	18.0	7.2	8.0	8.3	5.4	0.5	37.2
	80代以上	(1,022)	42.9	34.1	18.9	9.0	7.4	8.6	5.5	1.1	37.9
世帯年収別	200万円未満	(471)	38.6	21.9	9.1	3.4	4.2	4.7	2.1	0.8	47.1
	200~400万円未満	(1,764)	43.8	27.4	15.6	6.5	6.5	6.2	3.9	0.9	41.2
	400~600万円未満	(1,070)	49.1	40.0	23.6	10.9	8.6	10.6	7.9	1.0	31.6
	600~800万円未満	(497)	50.3	39.4	22.5	13.1	11.7	7.6	8.2	1.2	28.6
	800~1000万円未満	(256)	54.7	43.8	25.4	11.3	13.3	15.2	6.6	0.4	24.2
	1000万円以上	(307)	57.7	50.5	33.9	19.2	17.9	16.3	13.7	1.3	20.2

※「2020年 全体 (構成比)」スコアで降順ソート

- 利用を検討してもよい金融商品は、「預貯金」(46.5%)が最も高く、次いで「株式」(31.8%)。「投資信託」は第3位で18.2%であるが、2位の「株式」とは約14ポイントの差がある。
- 「投資信託」の利用検討意向は、女性より男性で高く、また世帯年収が上がるほど高い。

3. 全般的な投資への意識と実態 (8)

利用を検討してもよい金融商品 (Q11)

												(%)
n=		預貯金	株式	投資信託	外貨建て商品	保険商品	債券	不動産投資信託	その他の金融商品	金融商品は利用を検討しない		
2020年 全体 (構成比)	(2,737)	46.5	31.8	18.2	8.6	8.5	8.2	6.0	0.8	37.1		
2019年 全体 (構成比)	(1,565)	46.5	30.4	17.3	7.9	11.2	8.2	4.8	0.5	35.2		
金融資産別	100万円未満 (530)	31.9	17.7	7.0	3.0	4.0	2.1	0.8	0.6	56.4		
	100万円～500万円未満 (588)	47.8	27.0	16.5	7.1	6.5	3.6	2.2	1.5	36.6		
	500万円～1000万円未満 (429)	50.3	38.0	21.7	11.7	10.0	7.5	4.9	0.7	24.5		
	1000万円～2000万円未満 (584)	51.7	38.9	26.4	11.0	10.8	10.6	7.2	0.5	25.9		
	2000万円～5000万円未満 (718)	59.3	53.3	30.8	14.5	12.3	16.3	12.3	1.4	16.9		
	5000万円～1億円未満 (271)	63.8	62.4	40.6	21.0	13.7	21.4	16.2	1.5	14.8		
	1億円以上 (85)	70.6	70.6	48.2	27.1	21.2	28.2	25.9	3.5	10.6		
	投資経験別	投資経験者 (3,308)	52.4	48.1	27.6	12.8	10.2	12.3	8.8	1.3	23.0	
現投資者 (2,267)		55.4	63.3	36.2	16.6	11.6	16.6	12.2	1.2	13.5		
過去投資者 (1,041)		45.8	15.1	8.8	4.4	7.3	2.9	1.3	1.3	43.7		
投資未経験者 (1,838)		34.6	4.0	2.5	1.3	5.2	0.8	0.2	0.1	62.5		

※「2020年 全体 (構成比)」スコアで降順ソート

- 投資経験別でみると、現投資者では「投資信託」の利用検討意向が36.2%。
一方で、投資未経験者では「投資信託」の利用検討意向が、2.5%まで低下し、「金融商品は利用を検討しない」が62.5%を占める。

3. 全般的な投資への意識と実態 (9)

金融商品・投資商品認知状況 (Q10)

※スコアは認知計（「自分で購入し保有している」～「（名前だけでも）知っているが、持っていたことはない」）

(%)

		n=	株式	投資信託	債券	外貨建て商品	不動産投資信託
2020年 全体 (構成比)		(2,737)	91.9	83.3	81.9	68.3	57.3
2019年 全体 (構成比)		(1,565)	91.9	84.1	82.8	67.9	58.5
性別	男性	(2,429)	95.4	87.6	86.8	75.6	65.5
	女性	(2,717)	89.9	82.2	79.9	64.3	52.3
年代別	60代	(2,319)	91.3	83.1	82.7	69.2	56.1
	70代	(1,805)	94.9	88.8	85.0	71.1	59.5
	80代以上	(1,022)	90.9	81.5	80.9	68.0	62.2
世帯年収別	200万円未満	(471)	87.5	78.3	75.4	56.1	49.7
	200～400万円未満	(1,764)	91.8	84.6	82.1	66.8	55.6
	400～600万円未満	(1,070)	95.0	87.9	86.3	74.4	62.1
	600～800万円未満	(497)	93.6	86.9	85.1	78.5	65.4
	800～1000万円未満	(256)	96.9	88.3	89.1	78.1	60.2
	1000万円以上	(307)	95.4	90.9	91.9	83.4	74.6

※「2020年 全体 (構成比)」スコアで降順ソート

- 金融商品・投資商品の認知状況をみると、「株式」(91.9%)の認知率が最も高く、次いで「投資信託」(83.3%)、「債券」(81.9%)。
- 「投資信託」の認知率は、世帯年収が上がるほど高く、1000万円以上で9割を超える。

3. 全般的な投資への意識と実態 (10)

金融商品・投資商品認知状況 (Q10)

※スコアは認知計（「自分で購入し保有している」～「（名前だけでも）知っているが、持っていたことはない」）

(%)

n=		株式	投資信託	債券	外貨建て商品	不動産投資信託
2020年 全体 (構成比)		91.9	83.3	81.9	68.3	57.3
2019年 全体 (構成比)		91.9	84.1	82.8	67.9	58.5
金融資産別	100万円未満 (530)	86.6	72.3	71.1	52.1	46.8
	100万円～500万円未満 (588)	92.0	83.7	82.1	67.5	59.4
	500万円～1000万円未満 (429)	95.3	89.7	85.5	75.1	59.0
	1000万円～2000万円未満 (584)	95.0	90.6	87.2	77.2	62.2
	2000万円～5000万円未満 (718)	97.8	94.4	92.5	85.4	69.4
	5000万円～1億円未満 (271)	98.9	97.4	95.6	91.5	83.0
	1億円以上 (85)	97.6	95.3	96.5	95.3	88.2
	投資経験別	投資経験者 (3,308)	97.6	94.3	90.1	82.7
現投資者 (2,267)		98.0	96.1	91.4	86.6	75.2
過去投資者 (1,041)		96.6	90.6	87.4	74.3	59.8
投資未経験者 (1,838)		83.4	67.5	70.6	46.0	37.2

※「2020年 全体 (構成比)」スコアで降順ソート

- 投資経験別でみると、投資未経験者の「投資信託」の認知率は67.5%と、投資経験者と比較して低い。

3. 全般的な投資への意識と実態 (11)

金融商品・投資商品保有経験状況 (Q10)

※スコアは保有経験計（「自分で購入し保有している」～「以前保有していたことはあるが、今は保有していない」）

(%)

		n=	株式	投資信託	債券	外貨建て商品	不動産投資信託
2020年 全体 (構成比)		(2,737)	50.7	39.8	27.4	22.9	12.6
2019年 全体 (構成比)		(1,565)	53.6	43.5	28.2	21.9	11.5
性別	男性	(2,429)	63.2	43.5	29.9	24.1	13.4
	女性	(2,717)	42.5	38.4	25.1	21.4	10.5
年代別	60代	(2,319)	44.0	34.7	20.9	20.7	10.2
	70代	(1,805)	58.4	44.2	31.0	23.4	11.6
	80代以上	(1,022)	60.1	48.6	35.8	25.8	15.9
世帯年収別	200万円未満	(471)	38.6	31.6	20.8	14.2	6.6
	200～400万円未満	(1,764)	50.3	38.9	25.1	20.4	10.6
	400～600万円未満	(1,070)	58.6	46.4	32.1	27.0	15.0
	600～800万円未満	(497)	58.8	43.1	29.6	24.7	12.3
	800～1000万円未満	(256)	63.7	45.3	34.8	25.4	14.5
	1000万円以上	(307)	67.8	56.4	42.7	37.5	20.5

※「2020年 全体 (構成比)」スコアで降順ソート

- 金融商品・投資商品の保有経験状況を見ると、「株式」(50.7%)の保有経験率が最も高く、次いで「投資信託」(39.8%)、「債券」(27.4%)。
- 「投資信託」の保有経験率は、女性より男性で、60代より70代・80代以上で、また世帯年収が上がるほど高い傾向。

3. 全般的な投資への意識と実態 (12)

金融商品・投資商品保有経験状況 (Q10)

※スコアは保有経験計（「自分で購入し保有している」～「以前保有していたことはあるが、今は保有していない」）

(%)

		n=	株式	投資信託	債券	外貨建て商品	不動産投資信託
2020年 全体 (構成比)		(2,737)	50.7	39.8	27.4	22.9	12.6
2019年 全体 (構成比)		(1,565)	53.6	43.5	28.2	21.9	11.5
金融資産別	100万円未満	(530)	30.9	15.7	7.4	7.4	3.6
	100万円～500万円未満	(588)	45.9	32.5	15.3	13.1	6.5
	500万円～1000万円未満	(429)	59.0	47.1	26.6	23.5	11.7
	1000万円～2000万円未満	(584)	61.8	54.8	35.1	28.6	14.4
	2000万円～5000万円未満	(718)	72.6	62.0	48.7	40.7	21.2
	5000万円～1億円未満	(271)	83.8	72.7	61.3	48.0	28.0
	1億円以上	(85)	83.5	75.3	64.7	56.5	41.2
投資経験別	投資経験者	(3,308)	81.3	63.5	42.6	35.2	18.4
	現投資者	(2,267)	87.4	73.0	49.3	41.9	23.5
	過去投資者	(1,041)	68.1	42.6	28.0	20.8	7.4

※「2020年 全体 (構成比)」スコアで降順ソート

- 投資経験別でみると、現投資者は「株式」(87.4%)の保有経験率が最も高く、次いで「投資信託」(73.0%)。

3. 全般的な投資への意識と実態 (13)

金融商品・投資商品保有状況 (Q10)

※スコアは現保有計（「自分で購入し保有している」+「自分で購入してはいないが、贈与や相続を受けて保有している」）

(%)

		n=	株式	投資信託	債券	外貨建て商品	不動産投資信託
2020年 全体 (構成比)		(2,737)	33.8	22.5	11.4	11.3	6.4
2019年 全体 (構成比)		(1,565)	36.5	24.2	12.1	10.2	5.2
性別	男性	(2,429)	42.8	24.8	11.5	12.0	6.8
	女性	(2,717)	27.4	20.7	9.8	10.2	5.2
年代別	60代	(2,319)	30.1	20.4	8.6	11.3	5.0
	70代	(1,805)	38.3	23.4	11.8	10.1	6.0
	80代以上	(1,022)	38.5	26.5	13.2	11.9	8.1
世帯年収別	200万円未満	(471)	22.7	15.3	8.9	5.9	2.1
	200~400万円未満	(1,764)	29.8	19.2	9.0	8.4	4.5
	400~600万円未満	(1,070)	42.9	27.8	12.2	14.5	8.4
	600~800万円未満	(497)	40.2	24.5	11.9	14.9	6.6
	800~1000万円未満	(256)	44.9	31.6	15.6	16.0	9.8
	1000万円以上	(307)	55.0	37.8	20.5	21.5	13.0

※「2020年 全体 (構成比)」スコアで降順ソート

- 金融商品・投資商品の保有状況を見ると、「株式」(33.8%)の保有率が最も高く、次いで「投資信託」(22.5%)、「債券」(11.4%)。
- 「投資信託」の保有率は、女性より男性で、年代が上がるほど、また世帯年収が上がるほど高い傾向。

3. 全般的な投資への意識と実態（14）

金融商品・投資商品保有状況 (Q10)

※スコアは現保有計（「自分で購入し保有している」+「自分で購入してはいるが、贈与や相続を受けて保有している」）

(%)

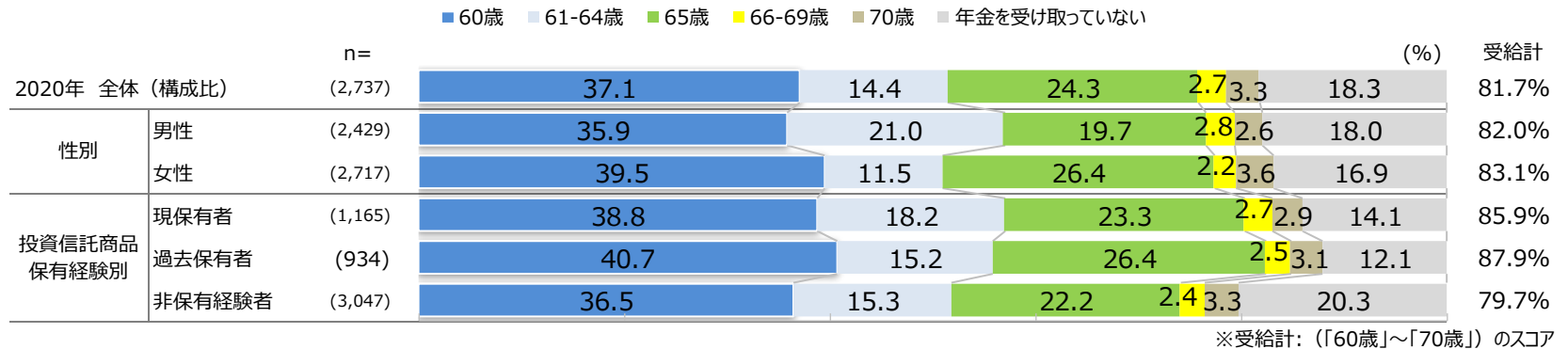
		n=	株式	投資信託	債券	外貨建て商品	不動産投資信託
2020年 全体（構成比）		(2,737)	33.8	22.5	11.4	11.3	6.4
2019年 全体（構成比）		(1,565)	36.5	24.2	12.1	10.2	5.2
金融資産別	100万円未満	(530)	9.2	3.6	0.8	2.1	0.9
	100万円～500万円未満	(588)	24.0	12.8	3.1	4.1	2.0
	500万円～1000万円未満	(429)	38.9	23.8	7.2	10.5	5.4
	1000万円～2000万円未満	(584)	43.5	31.5	14.0	14.2	7.0
	2000万円～5000万円未満	(718)	59.3	41.2	23.0	24.0	12.7
	5000万円～1億円未満	(271)	70.5	52.8	29.2	29.9	16.6
	1億円以上	(85)	77.6	55.3	37.6	35.3	25.9
投資経験別	投資経験者	(3,308)	53.9	35.2	16.5	17.2	9.3
	現投資者	(2,267)	78.7	51.4	24.1	25.1	13.5

※「2020年 全体（構成比）」スコアで降順ソート

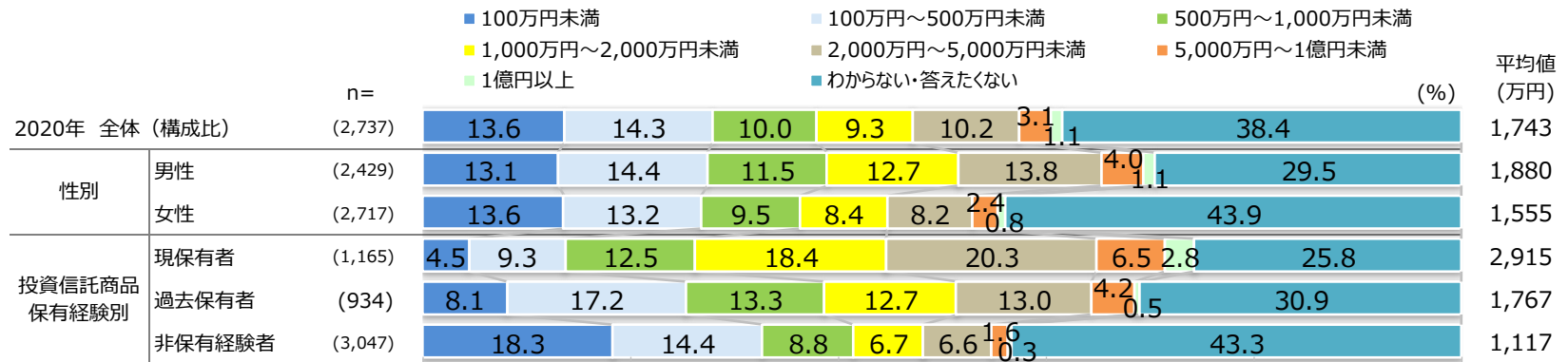
- 投資経験別で見ると、現投資者は「株式」（78.7%）の保有率が最も高く、次いで「投資信託」（51.4%）。

4.老後の資産（年金・退職金）に関する実態と意識（1）

年金受給状況/受給開始年齢 (Q14)



年金受給前の貯蓄額 (非受給者は現在の貯蓄額) (Q15)



※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り。
 100万円未満：50万円 / 100万円～500万円未満：300万円 / 500万円～1,000万円未満：750万円 / 1,000万円～2,000万円未満：1,500万円 /
 2,000万円～5,000万円未満：3,500万円 / 5,000万円～1億円未満：7,500万円 / 1億円以上：2億円

- 年金を受け取っている割合は、81.7%。受給開始年齢は、「60歳」（37.1%）が最も高く、次いで「65歳」（24.3%）。
- 年金受給前の貯蓄額（非受給者は現在の貯蓄額）は、「100万円～500万円未満」（14.3%）が最も高いが、どの貯蓄額の割合も同程度。

4.老後の資産（年金・退職金）に関する実態と意識（2）

退職金受取状況

(Q19)

■ 全額一時金で受け取った（受け取る予定） ■ 一部は一時金で受け取り、それ以外は年金で受け取った（受け取る予定） ■ 全額を年金で受け取った（受け取る予定）
 ■ 退職金はなかった（ない） ■ わからない

		n=	受取計 (%)					受取計 (%)
2020年 全体（構成比）		(2,737)	42.1	11.7	3.3	33.8	9.2	57.1%
性別	男性	(2,429)	55.0	18.3	4.2	19.1	3.5	77.4%
	女性	(2,717)	34.2	4.9	3.1	46.5	11.3	42.1%
投資信託商品保有経験別	現保有者	(1,165)	51.4	18.3	4.1	22.4	3.8	73.8%
	過去保有者	(934)	47.3	13.3	5.2	30.4	3.7	65.8%
	非保有経験者	(3,047)	40.1	7.9	2.9	38.8	10.3	50.9%

※受取計：（「全額一時金で受け取った（受け取る予定）」～「全額を年金で受け取った（受け取る予定）」）のスコア

退職金の使い道

(Q20) ※退職金受取（予定）者ベース

		n=	使い道 (%)										
			預貯金	日常生活費への充当	旅行等の趣味	住宅ローンの返済	資産運用のための金融商品の購入	住宅のリフォーム	家電など、耐久消費財の購入	子どもや孫の教育費や結婚費用等	開業・起業資金	その他	特にない
2020年 全体（構成比）		(1,562)	58.8	30.0	26.2	23.1	21.2	18.5	11.9	10.4	2.5	2.8	6.5
性別	男性	(1,881)	56.0	30.4	24.1	28.6	24.3	21.2	12.7	10.5	3.4	3.3	6.3
	女性	(1,145)	59.8	23.0	25.2	14.7	15.8	14.2	10.9	9.9	1.5	3.4	10.6
投資信託商品保有経験別	現保有者	(860)	63.5	22.1	28.4	20.0	43.6	19.4	11.7	11.5	2.2	2.8	4.5
	過去保有者	(615)	61.3	29.1	28.1	27.2	22.9	22.1	11.1	10.9	2.8	3.3	6.2
	非保有経験者	(1,551)	52.5	30.0	21.0	23.7	7.9	16.6	12.6	9.3	2.9	3.7	10.4

※「2020年 全体（構成比）」スコアで降順ソート

- 退職金受け取りの割合は、57.1%。その内訳は、「全額一時金で受け取った（受け取る予定）」（42.1%）、「一部は一時金で受け取り、それ以外は年金で受け取った（受け取る予定）」（11.7%）、「全額を年金で受け取った（受け取る予定）」（3.3%）。
- 退職金受取（予定）者の使い道は、「預貯金」（58.8%）が最も高い。次いで「日常生活費への充当」（30.0%）、「旅行等の趣味」（26.2%）。「資産運用のための金融商品の購入」への使用は、投資信託の現保有者で高い。

4.老後の資産（年金・退職金）に関する実態と意識（3）

退職金での購入（購入予定）金融商品

（Q21） ※退職金で金融商品購入（予定）者ベース

		n=	株式	投資信託	国内債券	外貨建て商品	保険商品 (外貨建て保険含む)	その他	わからない	(%)
2020年 全体（構成比）		(331)	58.0	55.0	25.1	19.0	18.4	2.4	1.8	
性別	男性	(458)	65.1	50.9	22.7	19.2	12.4	3.1	0.9	
	女性	(181)	45.3	58.6	24.9	14.9	26.5	2.8	4.4	
年代別	60代	(244)	52.5	47.5	23.0	18.0	22.1	2.9	1.6	
	70代	(237)	58.6	54.4	21.1	17.3	12.7	4.2	2.1	
	80代以上	(158)	71.5	59.5	27.2	19.0	13.3	1.3	1.9	
世帯年収別	200万円未満	(26)	65.4	30.8	19.2	7.7	26.9	3.8	-	
	200～400万円未満	(187)	51.9	50.8	20.9	14.4	16.0	3.7	3.2	
	400～600万円未満	(190)	61.6	56.3	25.3	23.2	15.3	2.6	1.6	
	600～800万円未満	(71)	69.0	45.1	21.1	7.0	12.7	-	1.4	
	800～1000万円未満	(46)	52.2	54.3	26.1	21.7	13.0	6.5	-	
	1000万円以上	(62)	69.4	58.1	29.0	27.4	21.0	1.6	1.6	
金融資産別	100万円未満	(10)	80.0	40.0	-	-	10.0	-	-	
	100万円～500万円未満	(37)	64.9	45.9	8.1	8.1	5.4	2.7	2.7	
	500万円～1000万円未満	(50)	64.0	58.0	22.0	18.0	18.0	-	-	
	1000万円～2000万円未満	(105)	59.0	54.3	19.0	17.1	15.2	6.7	1.0	
	2000万円～5000万円未満	(189)	57.1	52.9	28.0	19.0	18.5	1.1	1.6	
	5000万円～1億円未満	(90)	63.3	56.7	26.7	23.3	15.6	6.7	-	
	1億円以上	(33)	69.7	54.5	24.2	18.2	12.1	-	-	

※n=30未満は参考値として掲載

※「2020年 全体（構成比）」スコアで降順ソート

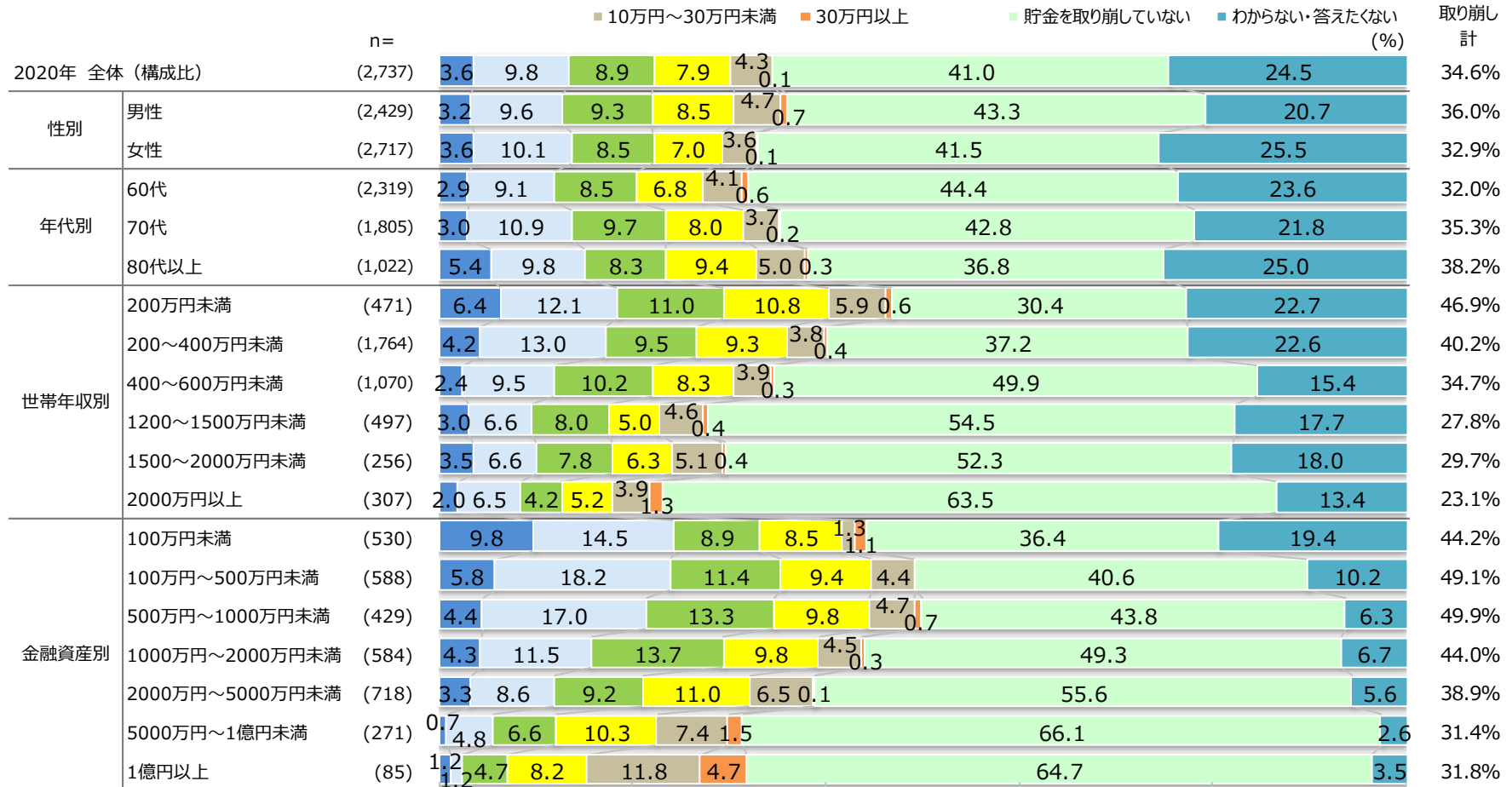
- 退職金で購入した（する予定の）金融商品は、「株式」（58.0%）が最も高い。次いで「投資信託」（55.0%）。
- 「投資信託」の購入は、男性より女性で、年代が上がるほど高い。
世帯年収別では、200～600万円未満、800～1000万円以上で5割を超える。

4.老後の資産（年金・退職金）に関する実態と意識（4）

毎月の貯蓄の取り崩し額

(Q22)

■ 1万円未満 ■ 1万円～3万円未満 ■ 3万円～5万円未満 ■ 5万円～10万円未満
 ■ 10万円～30万円未満 ■ 30万円以上 ■ 貯金を取り崩していない ■ わからない・答えたくない

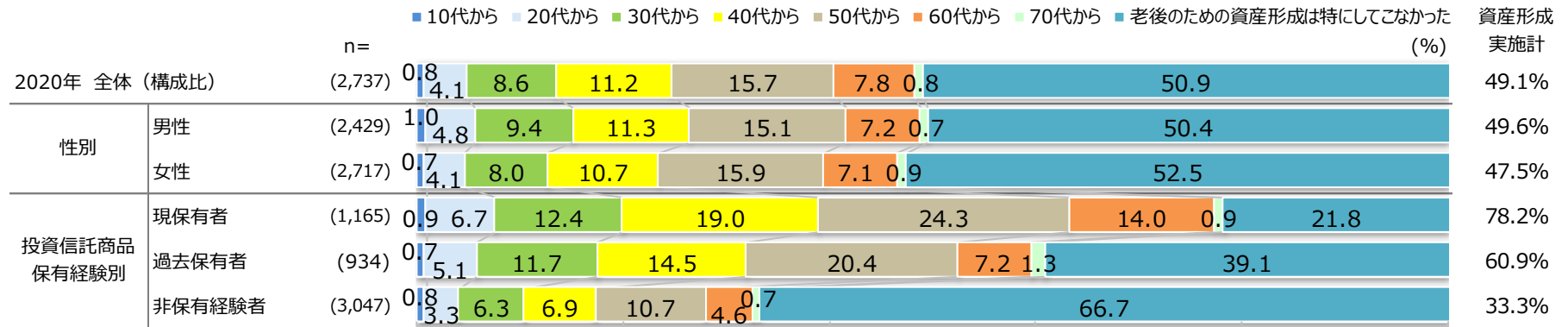


※取り崩し計：（「1万円未満」～「30万円以上」）のスコア

- 毎月の貯蓄の取り崩しは、「貯金を取り崩していない」（41.0％）が最も高い。取り崩している割合は、34.6％。取り崩している場合、「1万円～3万円未満」（9.8％）、「3万円～5万円未満」（8.9％）、「5万円～10万円未満」（7.9％）の順に高い。
- 世帯年収別では、年収が下がるほど取り崩している割合が高くなっている。

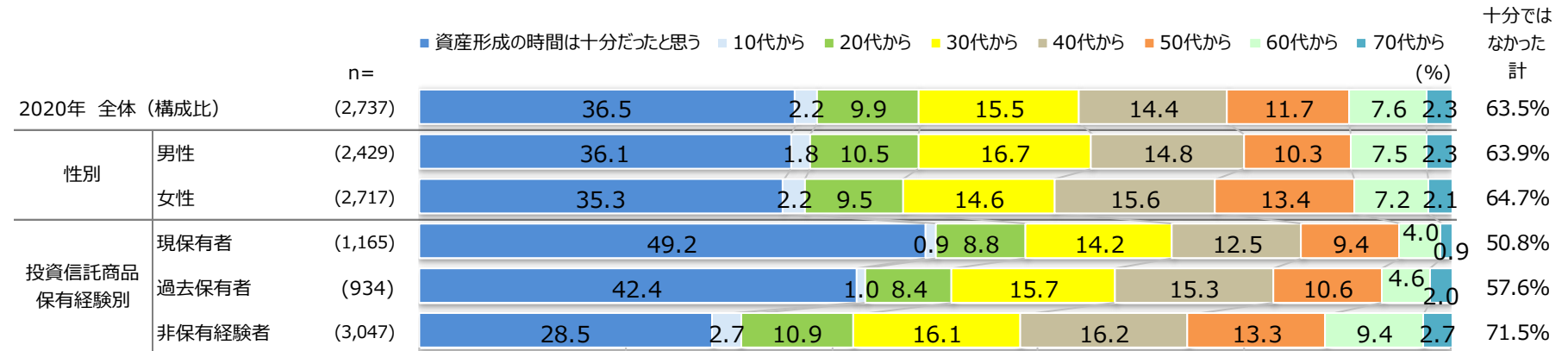
4.老後の資産（年金・退職金）に関する実態と意識（5）

老後のための資産形成を始めた年齢 (Q17)



※資産形成実施計: (「10代から」～「70代から」) のスコア

老後のための資産形成の十分さ (Q18)



※十分ではなかった計: (「10代から」～「70代から」) のスコア

- 60歳以上の半数（50.9%）の人が「老後のための資産形成は特にしてこなかった」と回答。投資信託商品保有経験別では、現保有者は「資産形成実施計」が78.2%まで上昇し、「50代から」から資産形成を始めている人が多い。
- 「資産形成の時間は十分だったと思う」人は36.5%に留まるが、投資信託商品現保有者では約半数（49.2%）まで上昇する。資産形成の時間が十分でなかったと思う人は、「30代から」、「40代から」資産形成を始めていれば良かったと思っている人が多い。投資信託商品保有経験別では、現保有者の「資産形成の時間は十分だったと思う」は約半数。非保有経験者と約20ポイント差がある。

4.老後の資産（年金・退職金）に関する実態と意識（6）

今後の金融資産管理の意識

(Q23)

■ 預貯金等から現金を取り崩して生活すると思う
 □ 投資をし、運用しながら金融資産の一部を現金化し生活すると思う
 ■ 出来るだけ金融資産は取り崩さず、年金やその他の所得のみで生活すると思う
 ■ その他

		n=	(%)			
2020年 全体（構成比）		(2,737)	37.2	10.9	50.0	2.0
性別	男性	(2,429)	36.0	14.0	48.4	1.6
	女性	(2,717)	38.2	8.1	51.8	2.0
投資信託商品保有経験別	現保有者	(1,165)	23.5	26.5	49.6	0.3
	過去保有者	(934)	34.9	14.0	49.4	1.7
	非保有経験者	(3,047)	43.1	3.9	50.7	2.4

今後の生活の金銭面での不安

(Q24)

		n=	家族または自身の医療・介護費用が心配	想定外の出費が不安 (子供の結婚や出産、家屋の修繕、病気の治療など)	退職金や年金だけで生活費が足りるかどうか不安	相続資金が残せるかが心配	その他	特に不安に思っていることはない
2020年 全体（構成比）		(2,737)	49.9	37.4	32.7	6.2	0.8	22.8
性別	男性	(2,429)	51.7	38.4	33.9	7.0	0.6	21.4
	女性	(2,717)	51.3	38.5	32.6	5.6	0.8	21.9
投資信託商品保有経験別	現保有者	(1,165)	53.5	42.6	28.9	7.8	0.3	22.6
	過去保有者	(934)	53.9	40.5	29.8	7.0	0.7	21.2
	非保有経験者	(3,047)	50.0	36.3	36.0	5.4	0.9	21.4

※「2020年 全体（構成比）」スコアで降順ソート

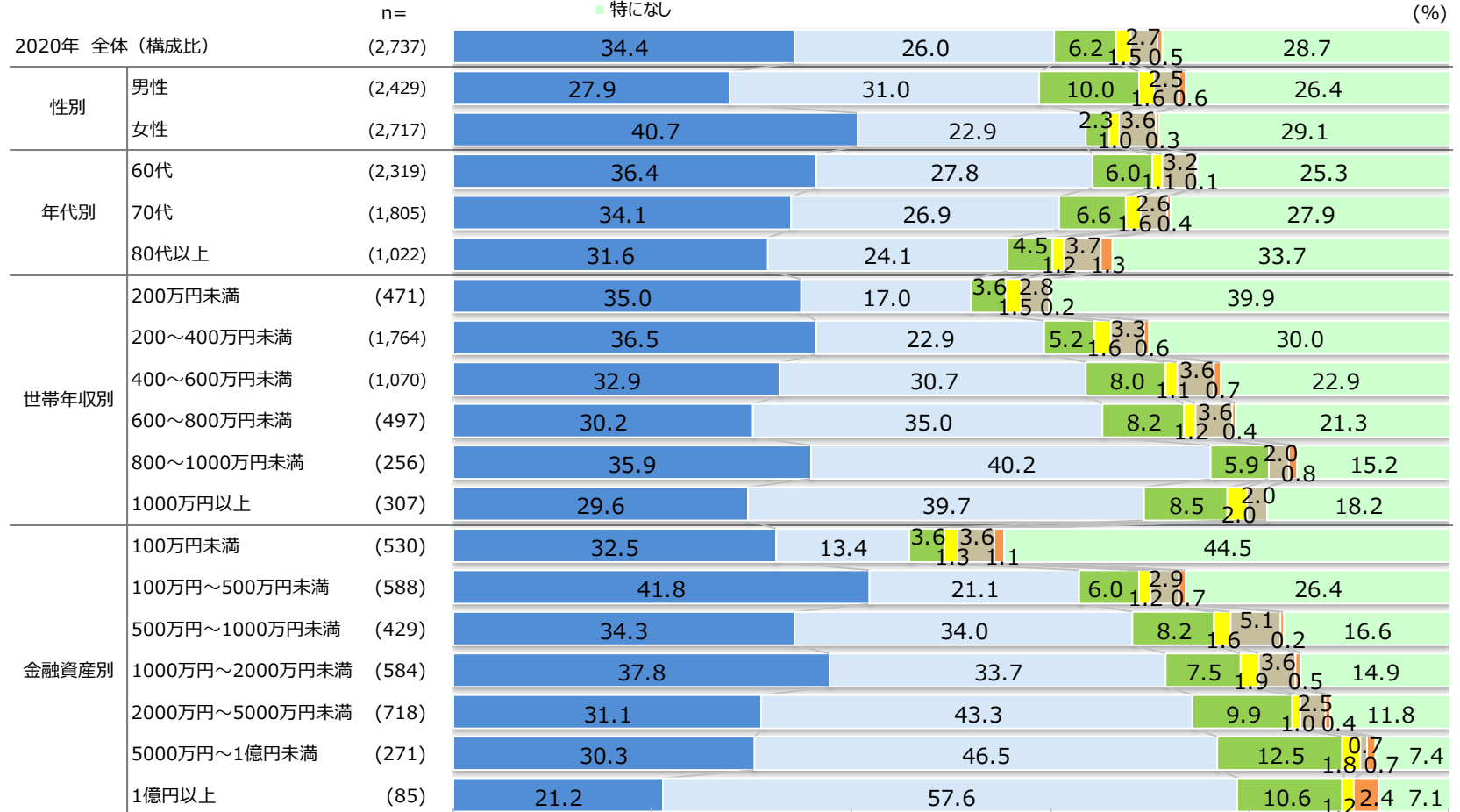
- 今後の金融資産の管理意識は、「出来るだけ金融資産は取り崩さず、年金やその他の所得のみで生活すると思う」（50.0%）が最も高い。次いで「預貯金等から現金を取り崩して生活すると思う」（37.2%）、「投資をし、運用しながら金融資産の一部を現金化し生活すると思う」（10.9%）。
- 今後の金銭面での不安は、「家族または自身の医療・介護費用が心配」（49.9%）が最も高い。次いで「想定外の出費が不安」（37.4%）、「退職金や年金だけで生活費が足りるかどうか不安」（32.7%）と続く。

4.老後の資産（年金・退職金）に関する実態と意識（7）

今後の金融商品購入時の意識

(Q16)

- 元本が保証されていること
- 高い収益は期待できなくても、リスクを抑えて運用したい
- リスクを取ってでも、積極的に資産を増やしたい
- 元本を取り崩しても、定期的に分配金を受け取りたい
- 一定期間経つと、一時金がもらえること
- その他
- 特になし



- 今後金融商品を購入する時の意識は、「元本が保証されていること」（34.4%）、「高い収益は期待できなくても、リスクを抑えて運用したい」（26.0%）の2つが高い。
- 性別で見ると、女性では「元本が保証されていること」、男性では「高い収益は期待できなくても、リスクを抑えて運用したい」が高い。
- 世帯年収別で見ると、年収が上がるほど「高い収益は期待できなくても、リスクを抑えて運用したい」が高い傾向。

5. 60歳代以上の現在の生活や今後への意識 (1)

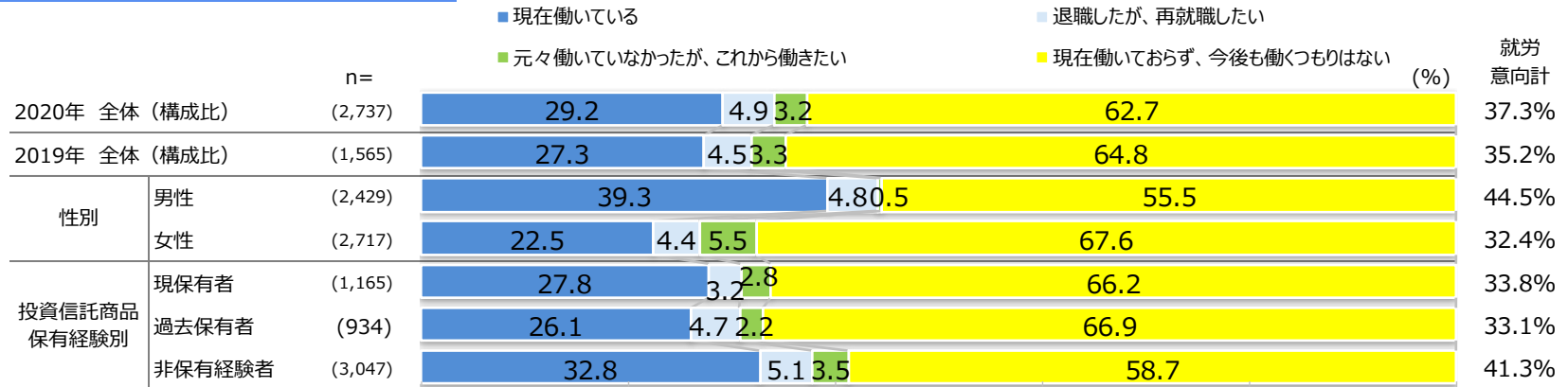
普段の生活の楽しみ・大切にしていること (Q2)

		n=	趣味	家族との時間	旅行	健康管理	友人・知人との時間	外食	家事	仕事	子育て (孫・ひ孫を含む)	ボランティア	その他	特にな	(%)
2020年 全体 (構成比)		(2,737)	62.4	53.7	53.3	50.2	41.6	28.6	22.5	14.0	9.4	9.0	1.4	6.7	
2019年 全体 (構成比)		(1,565)	64.7	54.2	51.2	53.8	42.7	26.1	23.6	12.5	9.5	10.0	2.0	6.3	
性別	男性	(2,429)	66.6	56.0	51.8	51.7	31.4	24.5	13.9	17.0	8.2	9.3	1.4	7.2	
	女性	(2,717)	60.6	54.1	54.1	49.5	50.4	33.2	30.1	10.7	9.3	9.5	1.7	5.4	
投資信託商品保有経験別	現保有者	(1,165)	69.6	57.0	64.0	56.6	49.4	32.7	24.0	13.6	10.0	12.6	1.3	3.4	
	過去保有者	(934)	70.0	60.8	59.6	58.0	48.2	33.2	24.8	13.3	9.9	11.3	1.7	3.0	
	非保有経験者	(3,047)	59.0	52.4	46.7	46.0	36.3	26.4	21.1	13.8	7.9	7.5	1.6	8.3	

※「2020年 全体 (構成比)」スコアで降順ソート

就業状況・意識

(Q25)



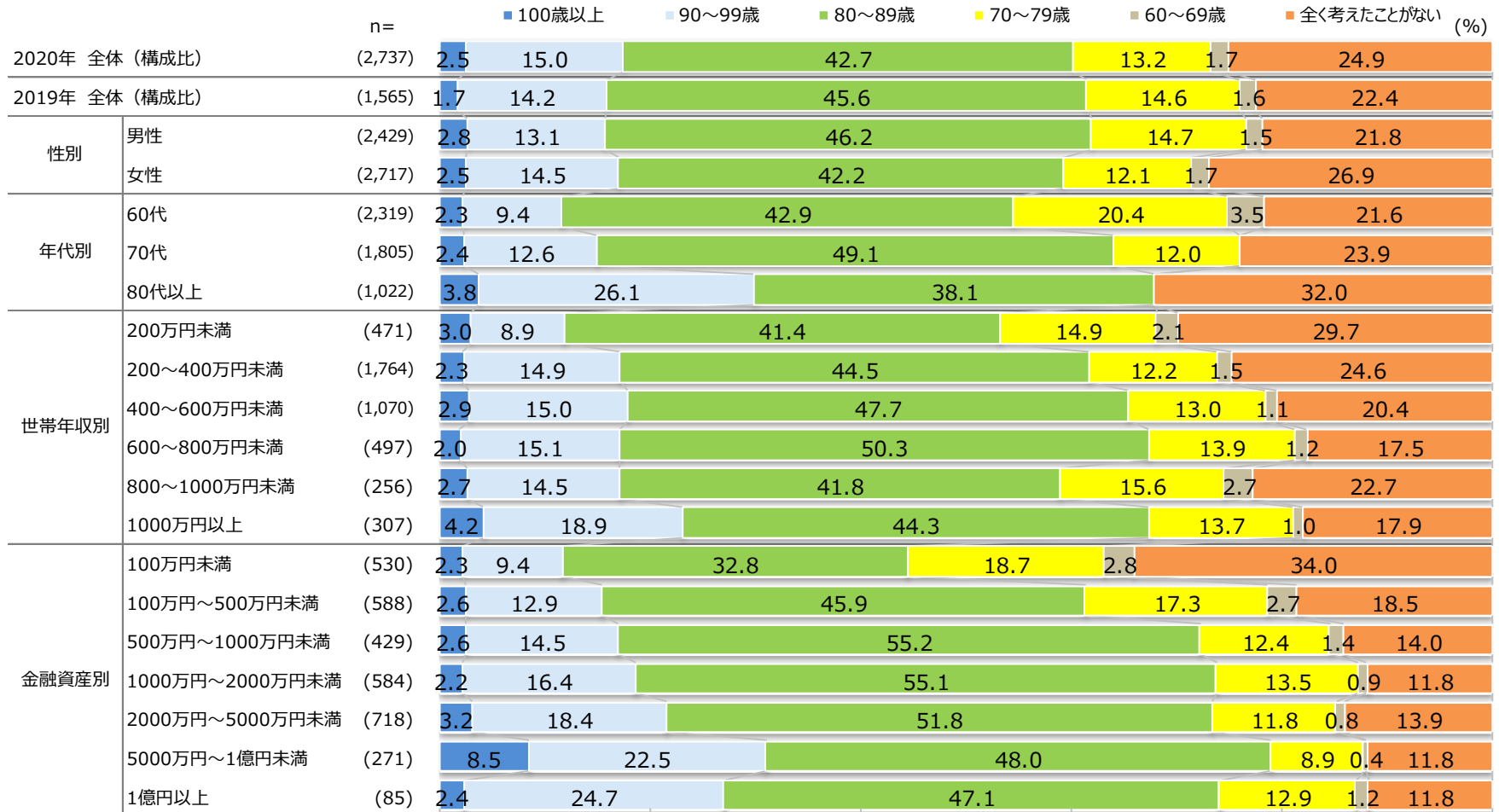
※就労意向計: (「現在働いている」～「元々働いていなかったが、これから働きたい」) のスコア

- 普段の生活の楽しみ・大切にしていることは、「趣味」(62.4%)、「家族との時間」(53.7%)、「旅行」(53.3%)、「健康管理」(50.2%)の順で高い。
- 就労状況・意識は、「現在働いている」が29.2%、「退職したが、再就職したい」が4.9%、「元々働いていなかったが、これから働きたい」が3.2%、「現在働いておらず、今後も働くつもりはない」が62.7%。

5. 60歳代以上の現在の生活や今後への意識 (2)

自身の想定寿命

(Q30)

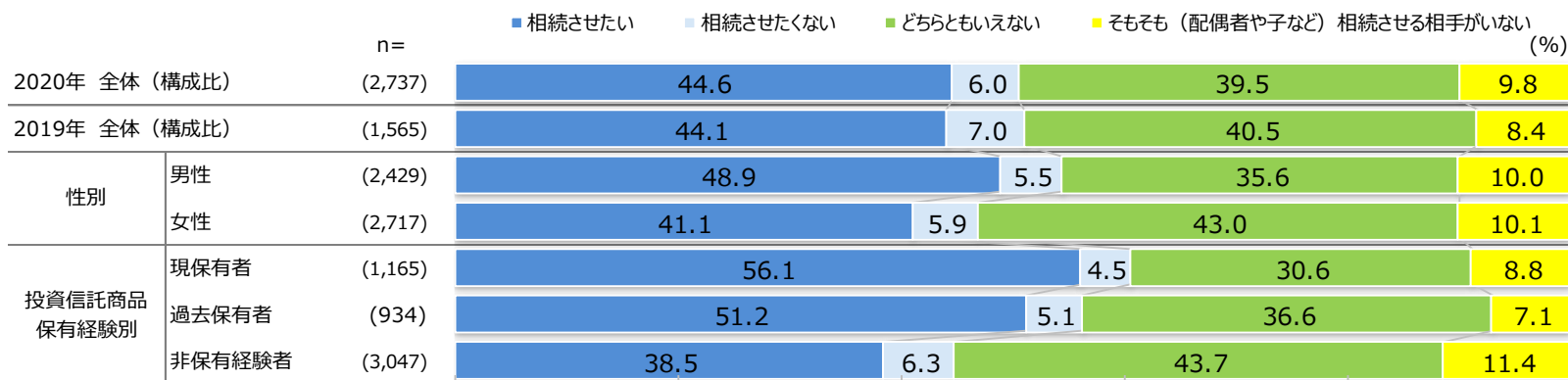


- 自身の想定寿命は、「80~89歳」(42.7%)が最も高い。
- 世帯年収別で見ると、年収下がるほど「全く考えたことがない」の割合が高くなっている。

5. 60歳代以上の現在の生活や今後への意識 (3)

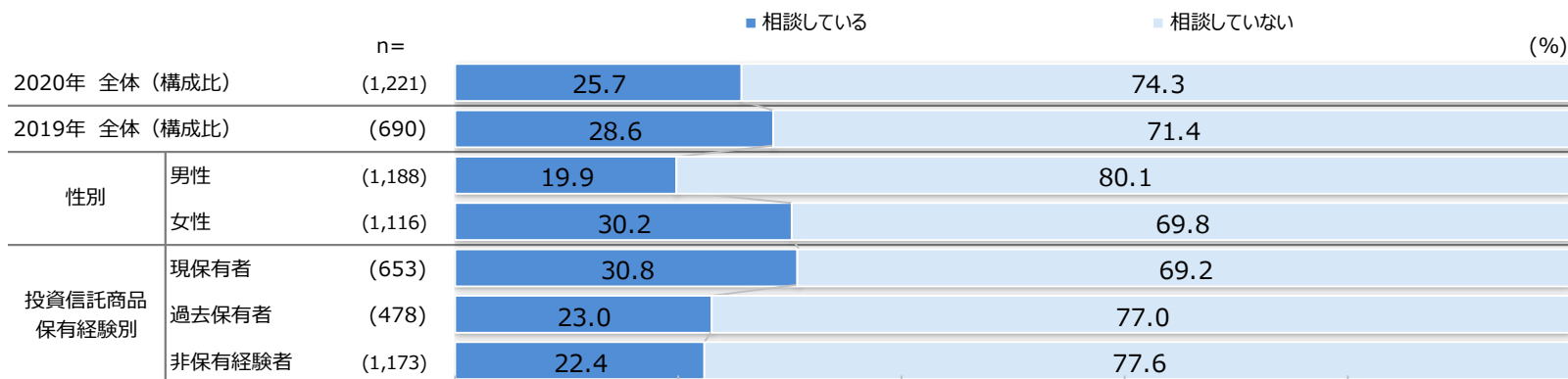
財産の相続意向

(Q26)



財産相続の相談状況

(Q27) ※財産相続意向者ベース



- 自分の財産の相続意向は、「相続させたい」が44.6%。「どちらともいえない」も39.5%。
投資信託商品保有経験別でみると、現保有者では「相続させたい」が56.1%と高い。一方、非保有経験者では「相続したい」は38.5%に留まり、「どちらともいえない」(43.7%)が現保有者・過去保有者より高くなっている。
- 相続意向者のうち、相続について相続相手と「相談している」割合は25.7%。
性別でみると、女性は「相談している」が30.2%と、男性の19.9%と比較して高い。

5. 60歳代以上の現在の生活や今後への意識 (4)

引き継いでもらいたい資産

(Q28) ※財産相続意向者ベース

n=			実物資産					金融資産							特にない
			家屋	土地	金等の貴金属や宝石	美術品・骨董品	その他の実物資産	現金・預貯金	生命保険の保険金	株式	投資信託	債券(国債・社債など)	生命保険以外の保険金	その他の金融資産	
2020年 全体 (構成比)			73.1	71.4	15.0	5.9	0.7	82.5	36.4	28.3	17.7	8.0	0.8	0.2	2.9
2019年 全体 (構成比)			71.4	68.1	15.9	5.2	1.3	83.6	41.9	32.9	19.4	10.1	0.6	0.6	3.5
性別	男性	(1,188)	81.2	79.6	8.9	5.9	1.0	80.5	34.8	35.4	18.5	8.9	0.5	0.3	2.1
	女性	(1,116)	61.5	59.7	19.8	4.9	0.6	84.1	37.5	23.1	16.4	7.3	0.8	0.2	4.6
投資信託商品保有経験別	現保有者	(653)	76.1	75.7	17.9	8.4	0.8	88.2	48.4	54.2	58.3	19.1	1.1	0.3	1.1
	過去保有者	(478)	75.7	72.6	14.4	5.0	0.6	86.6	39.3	33.1	2.5	6.7	1.0	0.6	1.3
	非保有経験者	(1,173)	67.5	65.7	12.0	3.9	0.9	77.1	28.0	14.2	0.9	2.6	0.3	0.1	5.4

※カテゴリごとに「2020年 全体 (構成比)」スコアで降順ソート

相続する資産の現金化意向

(Q29) ※金融資産相続意向者ベース

n=			現金化意向計 (%)				
			金融商品は全て売却 (現金化) して相続してもらう予定だ	金融商品は一部を売却 (現金化) して相続してもらう予定だ	金融商品は全てをそのまま (現金化せずに) 相続してもらう予定だ	どう相続してもらうかはまだ決まっていない	
2020年 全体 (構成比)			16.4	11.6	24.8	47.2	28.0%
性別	男性	(670)	16.7	11.9	28.1	43.3	28.7%
	女性	(572)	16.4	10.8	17.5	55.2	27.3%
投資信託商品保有経験別	現保有者	(533)	17.6	14.6	26.6	41.1	32.3%
	過去保有者	(277)	15.9	11.9	23.5	48.7	27.8%
	非保有経験者	(432)	15.7	7.2	18.8	58.3	22.9%

※現金化意向計: (「金融商品は全て売却 (現金化) して相続してもらう予定だ」+「金融商品は一部を売却 (現金化) して相続してもらう予定だ」) のスコア

- 相続意向者において、引き継いでもらいたい資産は、「現金・預貯金」(82.5%)、「家屋」(73.1%)、「土地」(71.4%)が上位に挙がる。「投資信託」は、投資信託現保有者の58.3%が相続意向を持っている。
- 金融資産相続意向者のうち、現金化意向者は28.0%。その内訳は、「金融商品は全て売却 (現金化)」(16.4%)、「金融商品は一部を売却 (現金化)」(11.6%)。現金化をしない割合は、24.8%。現金化について未定の割合は、47.2%。